

福島第1原発事故に奪われたもの

シンポジウム

忘れない、風化させない、孤立を許さない

家族とコミュニティ 5年目の「日常」から

けっして事故を忘れることを許されなかった過酷な「日常」
それは、どこに暮らすだれにとっても大切なことは何か
おしえてくれます。人がつながり、生きていくために…

福島県の飯舘村、川内村から避難、仮設住宅での生活を余儀なくされてもなお、不屈の闘志でがんばっていらっしゃるお二人から現在と想いを、また避難された家族や低線量下の子どもたちを心配する家族についてお話を聞きます。



長瀬やなせ カラップのおうちの会 総会・学習会

2015年12月13日(日) 13時開場、13時30分開会

With You さいたま 視聴覚室

* 会場案内図は裏面

* 協力金 500円 どなたでも参加できます。

飯舘村酪農家 長谷川健一さん

川内村 NPO 法人「昭和横丁」 志田篤さん

& ジャーナリスト 吉田千亜さん



問い合わせ／カラップのおうちの会事務局(090-8502-6207／090-8442-1364)

《パネリストの皆さんのプロフィール》

志田篤(しだあつし)さん／福島県川内村住民約120人が暮らす郡山市南一丁目仮設住宅自治会長。原発被災の周辺市町村のなかでもっとも早く「帰還困難区域」指定解除となった川内村から避難した高齢者が生活困窮におちいったことから、高齢支援を目的にNPO法人「昭和横丁」を設立(2013年10月)。全国に支援の必要を発信し、米、衣服、トイレットペーパーなど支援物資を集める。住民のつながりを大切にしながら、物資の配給や野菜の購入など活動を続けている。今年2月27日、原子力損害賠償紛争解決センターに裁判外紛争解決手続(ADR)を申し立て。旧緊急時避難準備区域住民112世帯258人の代表人となって、東京電力福島第1原発事故で生活が成り立たなくなったことへの賠償が不十分として、東電に慰謝料増額などを求めている。

長谷川健一(はせがわけんいち)さん／酪農家として長男次男とともに牛やイノシシを飼い暮らしてきた。福島第一原発事故による放射能汚染を知り、いち早く区長を務める飯館村前田地区の住民集会を開いて、現状を説明し、被曝を避けるための対処法を知らせた。以後、飯館村の映像を記録し続け、日本国内はもとより海外にも出かけ飯館村で起きていることを知らせる活動を展開している。著書『原発に「ふるさと」を奪われて——福島県飯館村・酪農家の叫び』(宝島社)『奪われた故郷—あの日飯館村で何が起こったのか』(オフィスエム)『までいな村、飯館』(長谷川健一+長谷川花子/七つ森書館)など。

吉田千亜(よしだちあ)さん／埼玉県在住のジャーナリスト。2児の母。埼玉県内の避難者に向けた情報誌『福玉便り』、『ママレボ』に執筆。原発事故と向き合い続ける母親たちの取材を続ける。また、福島県の通学路の放射線測定に定期的に通っている。『はかる、知る、くらす』(2014年3月発行、こどもみらい測定所)、『原発避難白書』(2015年9月発行、人文書院)編集・執筆に携わる。

With You さいたま／さいたま市中央区新都心2-2 電話 048-601-3111



さいたま新都心駅、改札を出て歩行者デッキを左へ。コーヒーショップ角を左折し直進。ホテルプリランテ武蔵野の3、4階がWith You さいたまです。